

医療機器政策調査研究所（MDPRO）では日本の医療機器企業の Investor Relations（以下、IR）（主に有価証券報告書）の調査を毎年度行っています。一般に IR では、各企業の国内外における事業活動に基づくデータが記載されています。

この度 2024 年度の IR の調査を終えたのを期に、日本の医療機器上場企業の売上高および海外売上高比率の経年変化についてご紹介します。

なお、企業間で事業年度の始期・終期にばらつきがあるため、会計年度の終期が  $n$  年 4 月 1 日から  $n+1$  年 3 月 31 日の間に含まれる事業年度を、一律に  $n$  年度として集計しています（[例 1] 事業年度が 2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の場合は 2023 年度、[例 2] 事業年度が 2023 年 7 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日の場合は 2024 年度）。

まず、2017 年度より継続して医療機器セグメントの売上高を確認できた 44 社<sup>a</sup> の売上高合計の推移を図 1 に示します。2017 年度から 2024 年度の 8 年間の CAGR は 6.3 % でした。前半 4 年間の CAGR が 2.3 % であったのに対し、後半 4 年間の CAGR は 8.8 % で、最近の売上高合計の増加が著しいことがわかります。この一因として、2022 年から続く円安による影響もあったものと推定します。

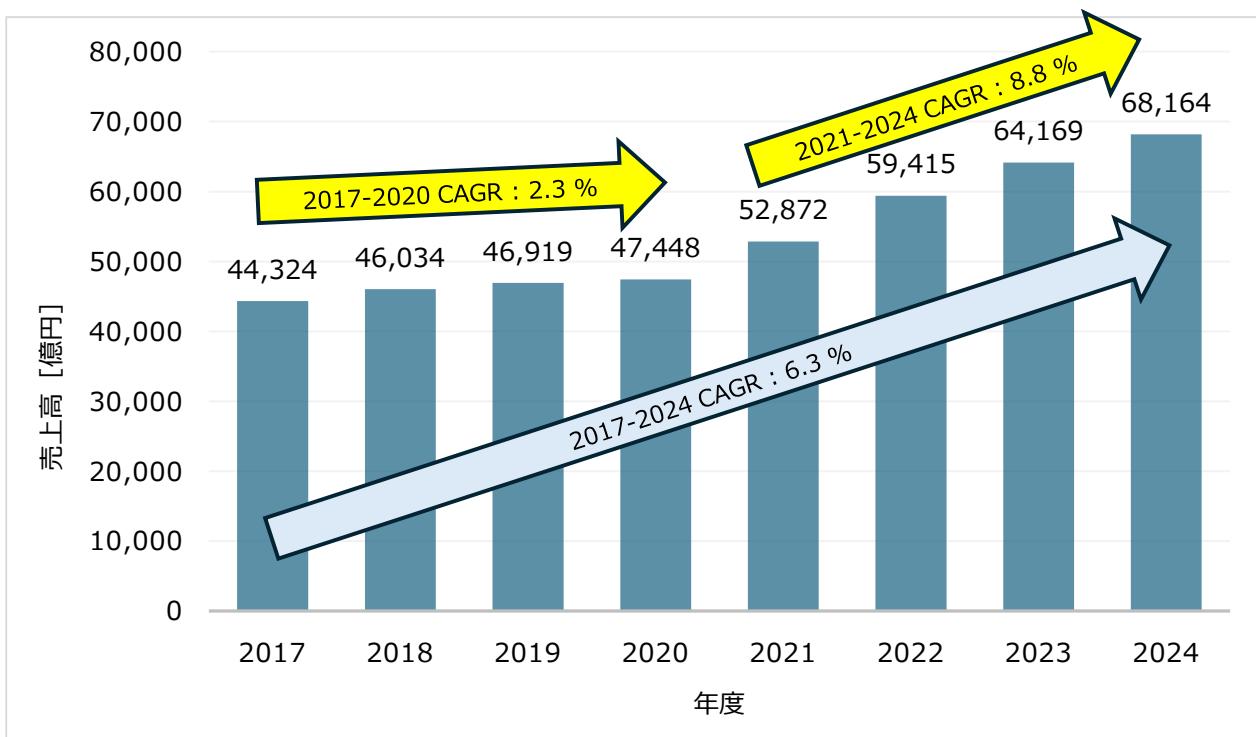


図 1 継続して医療機器セグメントの売上高を確認できた 44 社<sup>a</sup> の売上高合計の推移

[出所] 各社 IR データより MDPRO 作成

a 医療機器セグメントの売上高が確認できた 44 社（順不同）

オリンパス、テルモ、旭化成、キヤノン、HOYA、シスメックス、ニプロ、日本光電工業、オムロン、帝人、フクダ電子、コニカミノルタ、メニコン、ニコン、朝日インテック、日機装、トプコン、カネカ、島津製作所、ジェイ・エム・エス、東レ、ナカニシ、日本ライフライン、ホギメディカル、東洋紡、堀場製作所、松風、シード、マニー、エー・アンド・デイ、日本エム・ディ・エム、ニチバン、メディキット、日本電子、リオン、クリエートメディック、テクノメディカ、大研医器、川本産業、プレシジョン・システム・サイエンス、バイオラックス、日本アイ・エス・ケイ、オーベクス、日本フェンオール

図2は、図1に用いた44社<sup>a)</sup>の売上高の分布を箱ひげ図で表したものです。ここで箱ひげ図は、四分位数を用いてデータの分布を表します（図3）。四分位数とはデータを小さい順に並べて、4等分したものです。最小値から数えて、総数の1/4番目に当たる値が第1四分位数、真ん中に当たる値が中央値、3/4番目にあたる値が第3四分位数となります<sup>1)</sup>。

図2より各社の売上高の分布を見ると、上側の外れ値が、全8年間に渡り支配的で、2021年以降増加傾向が顕著でした。一方、上側の外れ値以外は全8年間に渡りグラフの比較的下部にまとまって分布しました。このことから、図1における2021年以降の4年間の売上高の成長傾向は、上側の外れ値の企業にけん引された結果と考えます。なお、全8年に渡り同一の7社が当該上側の外れ値となっていました（注：プロットが重なり上側の外れ値が7つ未満に見える年度あり）。

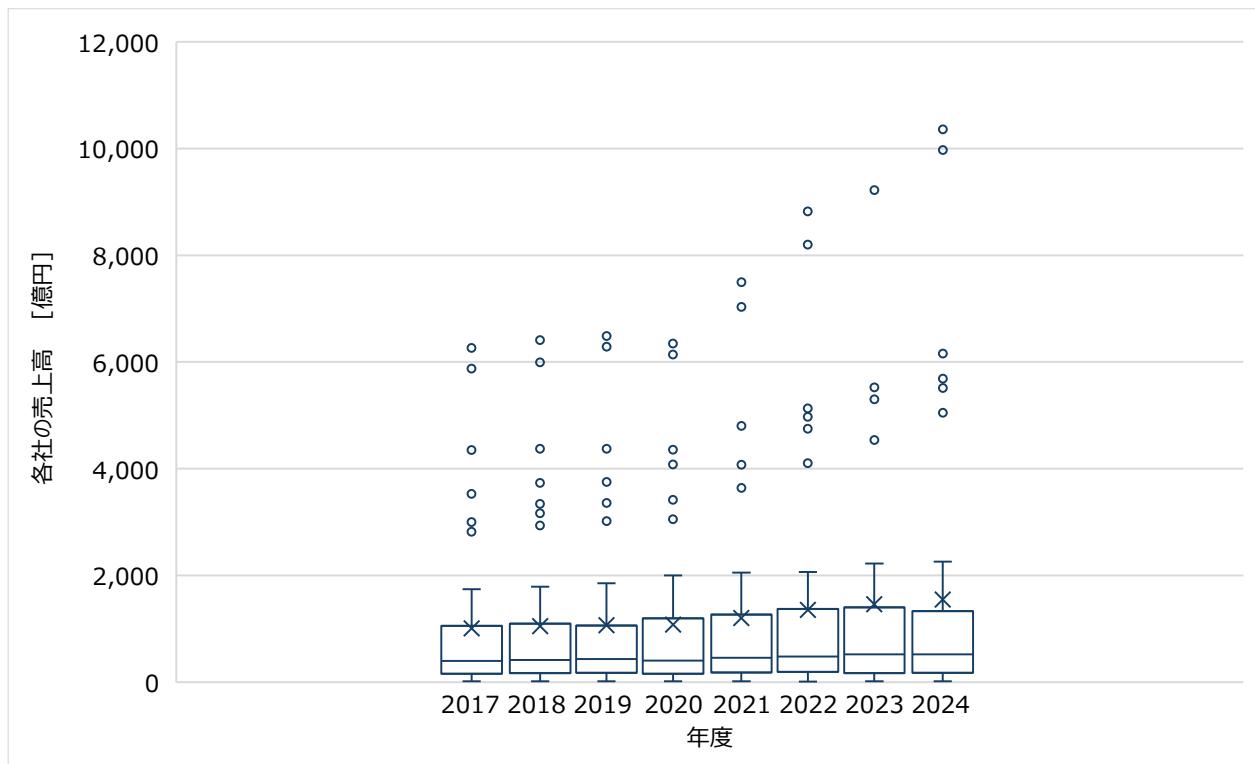


図2 各社（44社<sup>a)</sup>）の売上高の分布の推移

[出所] 各社IRデータより筆者作成

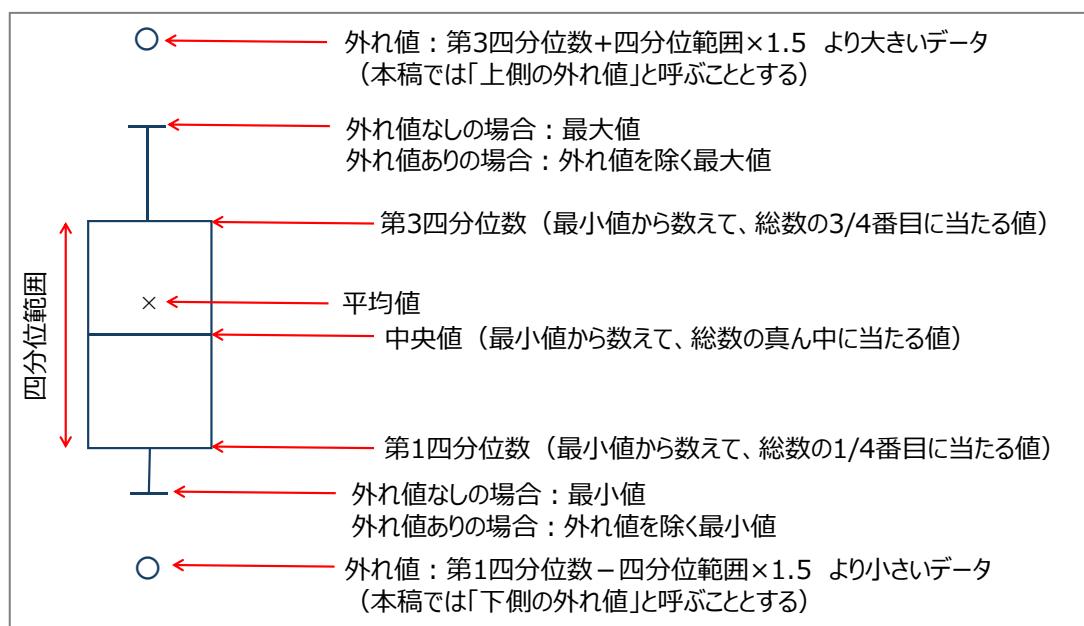


図3 箱ひげ図概説

[出所] 総務省統計局WEBサイト<sup>1)</sup>を参考に筆者作成

次に、当該 44 社の内、市場別売上高が確認できた 27 社<sup>b</sup>の市場別売上高合計およびそれらの比率の推移を図 4 に示します。市場別売上高（億円）を見ると、各国・地域の市場の売上高がおむね増加傾向であることが分かります。一方、市場別売上高比率（%）から、2018 年度の日本市場での売上高の比率は 37.4% と、図 4 に示す全市場中最大だったことがわかります。その後 2023 年度に、日本市場での売上高の比率（29.2%）は、米国市場（29.6%）より 0.4 ポイント下回りました。2024 年度にその差は 4.1 ポイントとさらに広がりました。海外売上高比率※は、2018



図 4 市場別売上高が確認できた 27 社<sup>b</sup>の市場別売上高合計およびそれらの比率の推移

[出所] 各社 IR データより MDPRE 作成

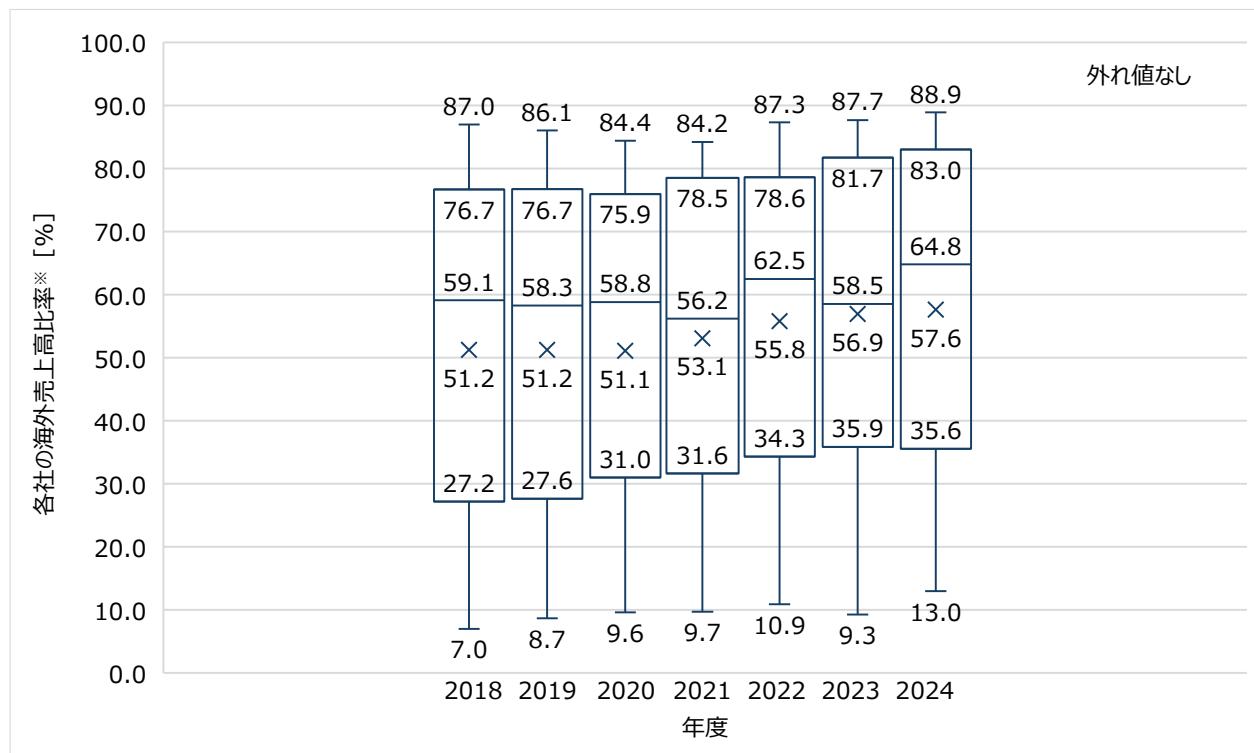


図 5 各社（27 社<sup>b</sup>）の海外売上高比率※の分布の推移

※図 4 に示した日本市場を除く国・地域の市場での売上高÷図 4 に示したすべての国・地域の市場での売上高×100 %

b 当該 44 社<sup>a</sup>の内、市場別売上高が確認できた 27 社（順不同）

オリンパス、テルモ、旭化成、シスメックス、HOYA、キヤノン、ニプロ、オムロン、ニコン、日本光電工業、朝日インテック、ナカニシ、島津製作所、メニコン、日機装、堀場製作所、ジェイ・エム・エス、マニー、松風、A&D ホロン HD、日本エム・ディ・エム、東レ、クリエートメディック、シード、メディキット、プレシジョン・システム・サイエンス、テクノメディカ

年度からおおむね増加傾向を示し、2024年度には72.3%と図4の調査期間で最大となりました（※図4に示した日本市場を除く国・地域の市場での売上高÷図4に示したすべての国・地域の市場での売上高×100%）。

図5は、当該27社<sup>b</sup>ごとに海外売上高比率を算出し、それらの分布を箱ひげ図で表したもので、2024年度の最小値、中間値、第3四分位数および最大値は、全7年間で最も大きな値となっています。よって、当該27社<sup>b</sup>の一部の企業だけではなく、比較的多くの企業の海外売上高比率の増加傾向は、図4に示された海外売上高比率の増加傾向に関連していると考えます。

また、当該増加傾向は、図6に示す通り、日本の医療機器市場に比べ、主な海外市場の成長率が過去の実績・将来予想のいずれも高いこと<sup>2)</sup>とも、関連性を持つと考えます。

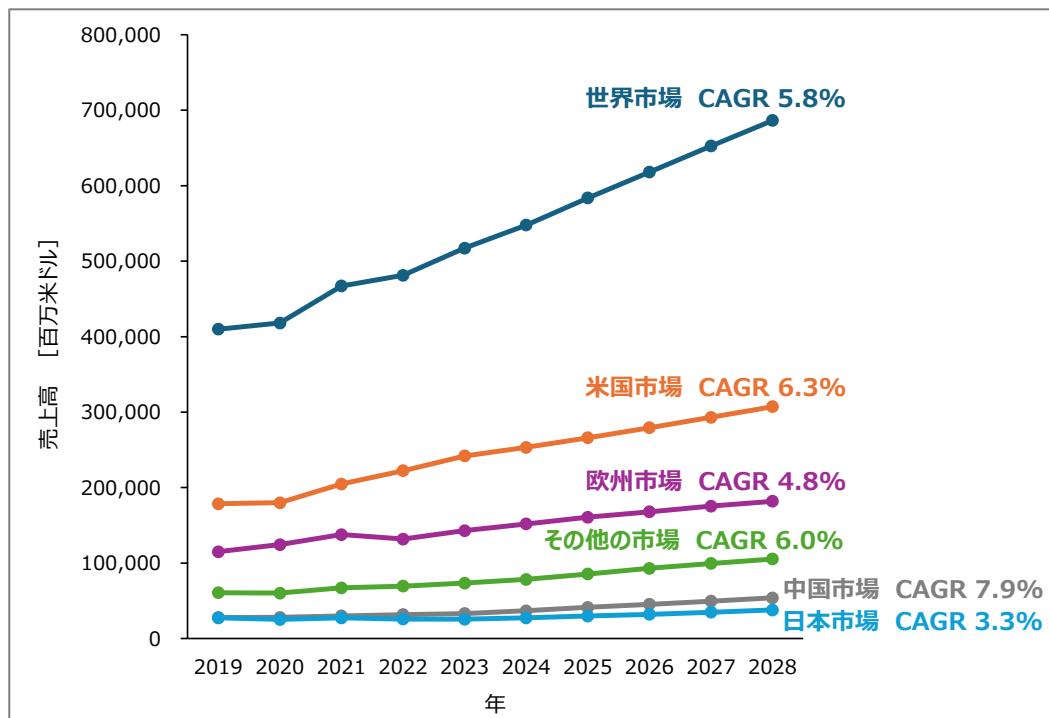


図6 市場別医療機器市場規模（売上高）の推移（2024年以降は予想値）

【出所】Fitch Solutions Group Limited : Worldwide Medical Devices Market Forecasts. March 2024<sup>2)</sup> より MDPRO 作成

今回は、日本の医療機器上場企業の売上高および海外売上高比率の経年変化についてご紹介しました。医療機器産業の更なる発展の一助となり得る情報を引き続きご提供できるよう、今後も研究活動により一層励む所存です。

◇ 出典（URLは2025年10月6日時点）

- 1) 総務省 統計局 : [https://www.stat.go.jp/naruhodo/4\\_graph/shokyu/hakohige.html](https://www.stat.go.jp/naruhodo/4_graph/shokyu/hakohige.html)
- 2) Fitch Solutions Group Limited : Worldwide Medical Devices Market Forecasts. March 2024 : 28-9, 2024.

（医療機器政策調査研究所 浅岡 延好 記）

【免責事項】本研究は公開されている企業の有価証券報告書などに基づき学術的観点から医療機器産業の特徴を分析したものである。記載した企業名は分析対象を明示する目的に限られ、財務的価値判断や投資判断の助言を意図するものではない。本研究は、筆者が信頼性および正確性を有すると判断した情報に基づき作成しているが、その内容の正確性、完全性、将来の確実性を保証するものではない。

医療機器政策調査研究所からのお知らせ [@JFMDA\\_MDPRO](https://twitter.com/JFMDA_MDP<small>RO</small>)  
X(旧Twitter)で医療機器産業関連のニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。